

まちの話 だい

11月12日 | 地域の魅力が大集合

おび通りと本通三・四丁目で、島田産業まつりが3年ぶりに開催されました(13日まで)。

会場では、市内の企業・商店・組合など、約70団体が出展。工業製品や地場産品を販売しました。また、おび通り南側のイベント広場に設けられたステージでは、島田南幼稚園や地域の団体による舞台発表が披露され、訪れた多くの人たちを楽しませていました。



11月19日 | 保育園舎の改築に着手

令和6年に建設後50年を迎える「ゆたか保育園」で、園舎改築の起工式が執り行われました。

式には、ゆたか保育園・市・建設会社などの関係者が出席。運営元の(福)こぼと会あべとらのすけの阿部虎之助理事長が鍬入れを行い、工事の安全を祈願しました。阿部理事長はあいさつで「子どもの生きる力の育成が求められている。地域に密着した多機能型の園にしたい」と抱負を語りました。

11月21日 | 病院に新ベンチを寄贈

市立総合医療センターの新ロータリーに、送迎の待合用として、3台のベンチが設置されました。

ベンチを寄贈したのは、今年度設立60周年を迎えた島田ライオンズクラブ。8月にオープンした新ロータリーで、寄贈式が行われました。同クラブの清水克俊しみずかつとしさんは「節目に何かできないかと思いベンチを設置した。病院を利用する多くの人に使ってもらいたい」とあいさつをしました。





11月26日 | 優しい光が通りを演出

川根町の家山駅前通りで、3年ぶりとなる「川根のぬっくいあかり展」が開催されました。

今回で8回目となる展覧会には、「川根あかりアート^{の会}」の会員や地元小中学生よって制作された約90個の行灯^{あんどん}が並びました。同会の見玉耕^{こたまこういち}会長は、「コロナ禍を経て3年ぶりに開催ができてうれしい。和紙で作られた行灯ならではの温もりを感じてほしい」と話しました。

12月16日 | 大井川に再び汽笛の音

9月の豪雨被害により、運休していた大井川鐵道が、金谷～家山駅間で運転を再開しました。

家山駅にSLが到着すると「川根おもてなし人クラブ」などの地元住民らがお出迎え。お手製のうちわなどには、大井川鐵道に向けた温かなメッセージ^{もりしたふみこ}が添えられていました。同クラブの森下文子さんは「汽笛は川根の元気の源。これからも一緒に応援していきたい」と笑顔で話しました。



12月23日 | 現代によみがえる頼朝像

博物館で、初代鎌倉幕府征夷大將軍の源頼朝を再現した「頼朝公像」が展示されました。

頼朝公像は、銘木総研(株)の「頼朝公像制作プロジェクト」によって、昨年10月に完成。源頼朝が手植えしたとされ、2012年に倒木した千葉山智満寺(千葉)の頼朝杉(推定樹齡800年)を活用しました。展示後は、今春をめどに源氏ゆかりの鶴岡八幡宮(神奈川県鎌倉市)に奉納される予定です。